

令和元年度 学校関係者評価及び改善策

(中間・**最終**)

呉中央中学校区 校番 13 学校名 呉中央中学校

評価項目	※評価	理由・意見
目標、指標の設定の適切さ	B	<ul style="list-style-type: none"> ・8年生の英・数において下回っている。改善策に水曜日放課後、分かる授業に取り組むことは続けてほしい。 ・学力調査、定期試験通過率30%未満に対する目標が厳しすぎるのではないかと。5%→10%に達成可能な目標が必要と思います。 ・学力調査、定期試験における通過率30%未満に驚き、家庭学習不足を感じました。 ・適切だと思います。
目標達成のための方策の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> ・十分だと思いますが、継続するに当たり、絞り込むのも大切と考えます。 ・適切な方策だと思います。生徒たちの頑張りに期待します。 ・適切だと思います。
自己評価の結果と分析の適切さ	B	<ul style="list-style-type: none"> ・中間・期末テストは範囲が決まっているから良い点が取れるが、実力テストは低くなるというのは学力が付いていないという事でしょうか。 ・十分に検討されていると思います。 ・自学自習のできる生徒になるように期待し、遅刻の固定化に凄く不安を感じます。 ・適切だと思います。
今後の改善策(案)の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> ・概ね適切と思います。 ・適切な改善策を示してあるので今後に期待します。 ・通過率30%未満の生徒にさらなる工夫をしていただきたいです。
その他		<ul style="list-style-type: none"> ・先生が話された試験の点が0点だった子どもが10点取れたときの喜びをとんでもうれしそうに話されたが、親はなかなか0が10になったからといって褒めてやれないのが現状。少しでも頑張ったことを認めてやって喜べる親になれば、子どももそれがきっかけで伸びてくれるのではないのでしょうか。とても嬉しく思いました。 ・「生徒と向き合う時間を確保する」について、先生方はどのようなイメージをもっておられるのかなと思います。「時間を確保する」だけに目を向けていると、物理的に難しいのではないかと思います。生徒自身が「先生が自分に向き合ってくれている」と感じられる、それが最終目標ではないのでしょうか。そう考えると、授業中のやりとり一つ、朝の挨拶一つ、帰りの会の後の教室での10分間、連絡ノートのコメント一つ、休憩(移動)時間のちょっとした会話一つ、それぞれに、生徒がそのように感じられるチャンスはあるのではないのでしょうか。何のために生徒と向き合うのか、そこがはっきりしていないと、時間を確保してもその機会を活かせないのではないのでしょうか。

※ 評価は、A(とても適切)、B(概ね適切)、C(あまり適切でない)、D(まったく適切でない)、N(分からない)

学校関係者評価を受けての今後の改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・方策に対する分析・改善策については、概ね良い評価をいただいているので、継続可能な方策を精査し来年度の取組につなげていく。 ・メディアコントロールのための取組、本気塾、放課後学習などは継続して取り組んでいく。 ・特に「豊かな学び」に係る指標や方策の設定については、生徒の実態に合わせて適切なものとなるよう、柔軟に見直していく。
--------------------	---